

# 駿河湾の地震に伴う 東名通行止めにより生じた影響 ～ 社会的な影響に関する調査結果の概要 ～

1 . 概要 : 東西の主要交通を担う日本の大動脈、東名高速道路が、平成21年8月11日に発生した、駿河湾を震源とする地震に伴う災害により、8月11日から15日の5日間にわたり通行止めとなりました。その際に生じた社会的な影響について、お盆の帰省や旅行、産業や地域生活への影響を含め幅広くアンケート調査等を実施し、添付資料のとおり概要を取りまとめました。( 詳細については添付資料を参照ください。)

## 2 . ポイント

### 人の流れへの影響

通行止め期間がお盆時期と重なったことにより、帰省や観光の足など人の流れに大きな影響。

5日間の通行止めにより、のべ130万人の足に影響(推計)。

帰省や旅行を計画していた人のうち、車利用の約9割が影響を受け、うち約2割が計画を中止、1割が交通機関を変更、目的地を変更した。

帰省や観光の足となる高速バス等で「高速バス119本が運休」「3時間の遅れ」。など

### 物流・産業への影響

物流に大きな影響、製造業、宅配便、観光産業など各産業にも影響が波及。

「到着が丸1日遅れた」など配送の遅延、運行取りやめ等が発生(輸送業)

「時間指定の荷物が遅延」「従業員の勤務時間増加で人件費増加」(宅配便)

「旅行ツアーの取りやめ」「宿泊キャンセル」(観光業) などの声

### 沿線地域への影響

大量の通過交通が地域の一般道路に流入し、激しい渋滞、交通事故の増加等を招き、地域の生活・各施設・医療活動にも様々な支障が生じた。

主な迂回路となった国道1号では、交通事故が平年に比べ5倍以上発生。

生活圏の道路が混んで日常生活や通院などに支障。「出勤に2時間多くかかった」

「生鮮食品配達に支障」(沿線店舗)、「治療のための血液輸送で遅れ」(赤十字血液センター) などの声

### 渋滞による損失、CO<sub>2</sub>排出量の変化

渋滞による損失時間102万人に増加。損失額は約21億円。

速度低下によるガソリン等燃料消費などの増加により走行経費は約5千万円増加。

東京ドーム約177個分の森林面積のCO<sub>2</sub>吸収量に相当するCO<sub>2</sub>排出量が増加と試算。

本資料は、平成21年8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震に伴い、東名高速道路が8月11日から15日の5日間にわたり通行止めとなった際に生じた社会的な影響について、お盆の帰省や旅行、産業や地域生活への影響を含め、「Webによる一般の方へのアンケート」(中部地方整備局)、「沿線地域の企業・店舗・医療関係機関等へのヒアリング」(中部地方整備局)、「高速利用大口顧客へのアンケート」(NEXCO中日本)の各調査で具体的影響があった内容のとりとまとめ、及び、交通量、渋滞、事故等の調査資料・試算などをとりまとめたものです。

# 1. 人の流れへの影響

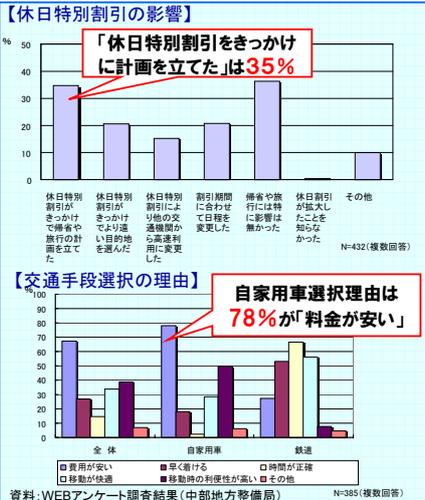
● 通行止め期間がお盆時期と重なったこと、また、休日特別割引をきっかけに自家用車での帰省や旅行を計画した人も多く、帰省や観光の足に大きな影響を与えた。  
(通行止めにより、約130万人の足に影響を与えたと推計)

● 東名を避けるため中央道や国道1号等に交通が転換。  
(約4割が地域の道路へ)  
(中央道で3万1千台/日(+66%)、国道1号で1万5千台/日(+27%)の交通量が増加)

【通行止め期間内の交通量の増減状況(高速道路)】



● 通行止め区間の平常時の交通量は一日約7万台。  
● お盆時期の交通集中により、約10万台の利用の予想。  
● 特別割引により、帰省に自家用車を選択する人も多かった。



## お盆の帰省・旅行への影響(Webアンケート)

- 8月11日~15日に被災地域を通過する帰省や旅行などを計画していた人のうち自家用車を予定していた人の約9割が影響を受け、うち約2割が計画を中止、約1割が交通機関を変更、目的地を変更した。また約4割が一般道へ迂回、約2割が中央道等へ迂回、約1割が解除されるまで延期した。
- 通行止めによる影響では、「迂回による時間損失」、「長時間運転による疲労」が多数、「日常生活や通院などに支障」なども。

## 公共交通(高速バス)へのヒアリング結果

- 帰省や観光の足となる高速バス(東名利用)で119本が運休。
- 通行止め区間を迂回して運行したバスも、最大で3時間の遅れ。  
などの声

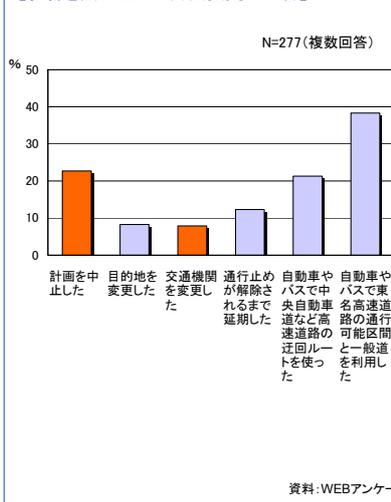
### JR東海バスへのヒアリング結果

- <高速バスの運休>
- 8月11日以降、計87本の東名ハイウェイバスを運休。
- <遅延>
- 運行したバスも通行止め区間の迂回で最大2時間半の遅れ。

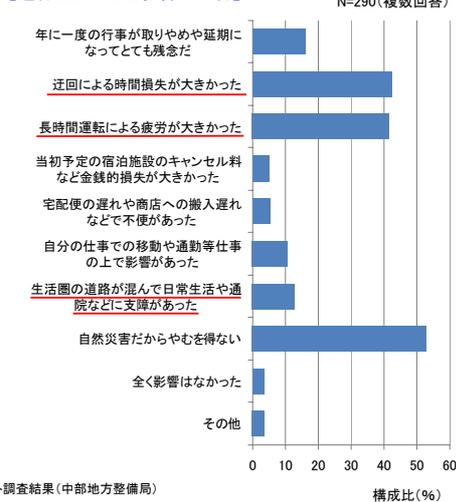
### しずてつジャストラインへのヒアリング結果

- <高速バスの運休>
- 中部国際空港線(8/11~8/13)、静岡成田空港線(8/11)、東京清水線(8/11)、新静岡新宿線(駿房ライナー)(8/11)、など合計32本を運休。
- <遅延>
- 富士山静岡空港静岡線(静岡IC~吉田IC使用)は国道150号への迂回運転をおこなったため、最大約3時間の遅れが発生。
- <運休による損失>
- 32本の運休が影響して、391人の予約キャンセル
- 高速バスの運休により約113万円の損失。

【影響を受けた人の計画変更の内容】



【通行止めによる影響の内容】



資料: 中部地方整備局 沿線企業等へのヒアリング調査結果より

## 2. 物流・産業への影響

物流に大きな影響、製造業、宅配便、観光産業など各産業にも影響が波及。

### 高速利用企業へのアンケート結果

- NEXCOの大口顧客アンケートでは約50%の企業が「影響があった」と回答。
- うち約70%が中央道等の高速道に経路変更を行い、70%の企業が運行時間を早くする対応を実施。また、運行の取りやめや増員・増便などが発生。

#### ● 通行止めによる企業活動への影響



(N=585)

#### NEXCO中日本アンケート調査の概要

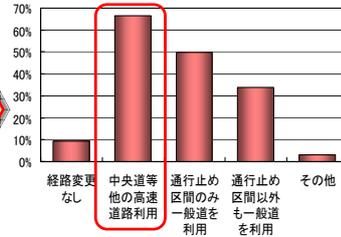
- ・実施方法  
各支社の大口多頻度登録の顧客宛てにアンケート調査表を配布・回収
- ・実施時期  
平成21年8月17日～
- ・アンケート回答数: 798票

そのうち、名古屋支社及び東京支社計585票を集計したもの

資料: NEXCO中日本実施の高速利用大口顧客アンケート調査より

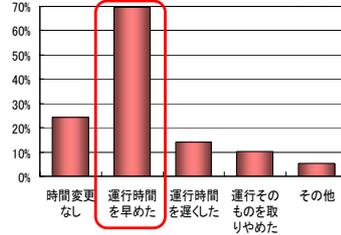
#### 【運行経路の変更】

(N=299、複数回答)



#### 【運行内容の変更】

(N=299、複数回答)



### 沿線企業等へのヒアリング結果

- 沿線の製造業、輸送業、宅配便や観光業などの企業等では、余裕時間を普段よりも余分に見て運行時間を早くしたり、配達順序や配達時刻の変更により対応。
- 「時間指定の荷物が遅延」「従業員の勤務時間増加で人件費増加」などの声。

#### <配達の遅れ>

● 中央自動車道に経路変更による遅れが2時間位あった。長距離輸送トラックが一般道に迂回し一部で半日遅れた。(運送業(焼津市))

● 時間指定の荷物が遅延。遅延の問合せが殺到し混乱した。(宅配便(浜松市))

#### <勤務時間の増加、コストの増加>

● 会社に戻ってくる車が遅れてしまい、次の日の積み込み作業が大幅に遅れたことで、従業員の勤務時間増加。また、人件費の増加。(運送業(富士市))

#### <影響に対する対応>

● お客さまへの対応人員を他所からまわし、担当を増やして対応した。(日本郵便(牧之原市))

資料: 中部地方整備局 沿線企業等へのヒアリング調査結果より

## 旅行業、観光施設へのヒアリング結果

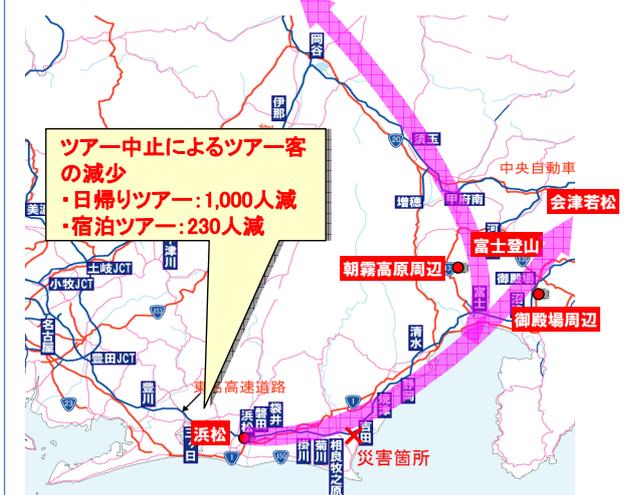
- 旅行業では、通行止めにより旅行ツアーの取りやめが発生。
- 観光地、観光施設でも通行止めにより宿泊のキャンセルや来客の減少等の影響がみられた。

#### <ツアーの取りやめ>

- 11日は全ツアー、12日も一部ツアーを中止。  
(日帰りツアー: 1,000人、宿泊ツアー: 230人)  
(遠州鉄道(浜松市))
- 通行止めにより、旅行ツアーを取りやめた。  
(旅行会社(浜松市))

【中止した旅行ツアーの主な行き先 (遠州鉄道(浜松市))】

黒部ダム 乗鞍スカイライン



#### <観光施設の客の来場や宿泊・サービス等への影響>

- 宿泊キャンセルが500名あった。(リゾート施設(掛川市))
- SL予約客が到着できず予約をキャンセルするお客さんが多数いた。キャンセル人数1480人(11日～15日)  
(大井川鐵道のSL(島田市))
- 地震+通行止めの影響で約500名程度キャンセルが発生。そのうち通行止めによるキャンセルは200名程度。  
(ホテル(焼津市))
- 浜松ナンバーなど近隣のお客が増加し、中京圏や遠方の方は減少。(観光施設(浜松市))
- 全体的に来客は例年に比べて少なく、中には売り上げが半分におちた店もあった。(観光施設(焼津市))

資料: 中部地方整備局 沿線企業等へのヒアリング調査結果より

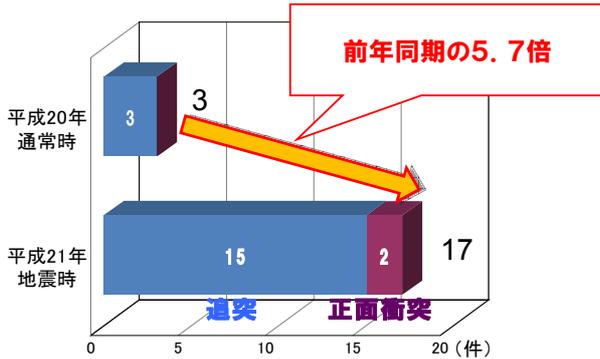
### 3. 沿線地域への影響

大量の通過交通が地域の一般道路に流入し、激しい渋滞、交通事故の増加等を招き、地域の生活・各施設・医療活動にも様々な支障が生じました。

#### 交通事故の増加

- 主な迂回路となった国道1号で平年比5倍以上の事故が発生。  
(通行止め期間中、国道1号では17件の事故が発生(昨年同時期3件。))  
追突事故、正面衝突事故が増加。

【国道1号交通事故発生件数(8月11日～8月15日)】



資料:静岡県警資料

#### 通勤など日常生活への影響の声

- 「通勤等仕事上で影響があった」「生活圏の道路が混んで日常生活や通院などに支障があった」など、生活・医療面でも影響あり。
- 各業種で、出勤時間、帰宅時間ともに影響。渋滞により出勤・帰宅に30分から2時間程度、多くかかったとの声。

- 静岡方面からの通勤者に2時間程度の影響がでた。(食品品製造業(牧之原市))
  - 出退勤ともに1時間程度余計にかかった。(複合型商業施設(磐田市))
  - 国道1号渋滞により、一部従業員の出勤、帰宅時間が30分から1時間30分増加。(ショッピングセンター(島田市))
- など

資料:中部地方整備局 沿線企業等へのヒアリング調査結果及びWEBアンケート調査結果より

#### 沿線の商店等へのヒアリング結果

- 沿線の商業施設では、仕入れの遅れ、昼食等の予約キャンセルなどの声。お客様への商品提供に影響。

##### <沿線の商業施設>

- 仕入れトラックの遅延(1~2時間)。生鮮食品などで困った。(ショッピングセンター(袋井市))
- 生鮮食品なまもの配達のための宅配便が丸一日遅れて、配達に支障が出た。(生鮮品販売店(焼津市))
- 150号線、静岡インター通りが全く動かず150号線沿いの当店にお客が入ってこられなかった。(ドラッグストア(静岡市))
- 販売実績が極端に落ちた。通行止め期間中の昼食等の予約キャンセル(計700件くらい(ほぼ予約全件))(食品品小売業(焼津市))
- 渋滞の影響で商品の入荷が遅れ、店内の商品がなくなることがあった。(道の駅「掛川」)

資料:中部地方整備局 沿線企業等へのヒアリング調査結果より

#### 医療関係機関へのヒアリング結果

- 東名通行止め、迂回交通の渋滞が血液輸送に影響
- 血液センターから、治療のための血液の到着の遅れが発生。新幹線を利用するなどの対応も実施。

##### <血液輸送時の所要時間への影響>

- 浜松赤十字血液センターから静岡県赤十字血液センターへ輸送する際に、通常より100~300分多く要した。また、短時間での血液搬送が必要となったため、浜松赤十字血液センターから静岡県赤十字血液センターへの輸送時には、渋滞による到着遅れを懸念して新幹線(浜松駅~静岡駅間)を利用した。(静岡県赤十字血液センター(静岡市))
- 国道1号の渋滞によって輸血用血液の到着が遅れた(藤枝市立総合病院(藤枝市))

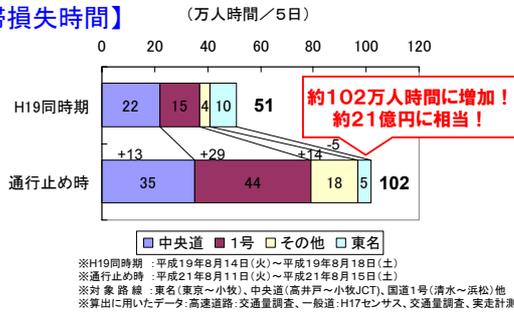


# 4. 渋滞による損失、CO2排出量の変化

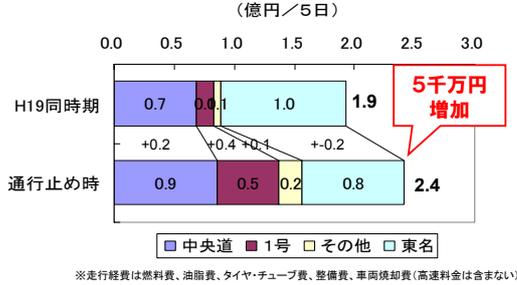
## 渋滞による損失等の試算結果

- 渋滞による損失時間は、102万人時間に増加。損失額※<sub>1</sub>は約21億円と試算。
- 速度低下によるガソリン等燃料費などの増加により、走行経費※<sub>2</sub>は、H19同時期と比べ、約5千万円増加と試算。

### 【渋滞損失時間】



### 【通行止め期間中の走行経費の増加】



## CO2排出増加量の試算結果

- CO2は通常時の約13%増加と試算(通常時68.5千t⇒通行止め時77.3t(約9千t増加))
- 増大したCO2は東京ドーム約177個分の森林面積吸収量に相当。



※ 森林吸収量原単位は10.6t/ha年とした(「土地利用・土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイドンス(優良手法指針)」より)  
 ※ 東京ドーム建築面積46,755m<sup>2</sup>より算出